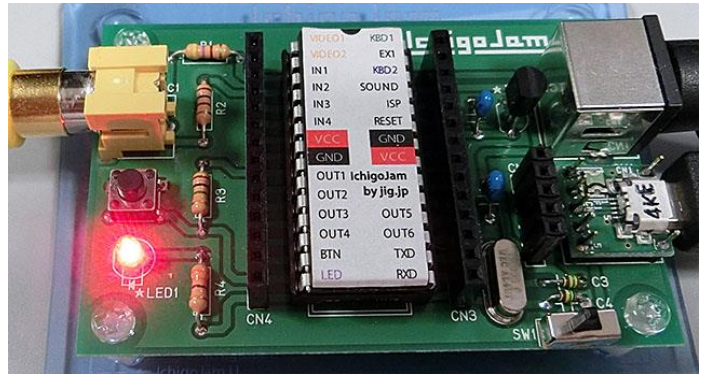


IchigoJam 入門・LED を光らせよう (1)

●今回の目標

IchigoJam に付いている LED を、いろいろに光らせます。
LED を光らせるための BASIC プログラムを作っていきます。



まずは、以下のプログラムを打ちます。

```
LED 1 <Enter キーを押す>
```

LED が光ります。

```
LED 0 <Enter キーを押す>
```

LED が消えます。

LED(エルイーディー)命令は、内蔵の LED を光らせる命令です。

```
LED 1  
スイッチ
```

スイッチ	1=ON、0=OFF
------	------------

このままでは一度に 1 つの命令しか使えません。
もう少し長いプログラムを作ってみましょう。

```
10 LED 1 <Enter>  
20 LED 0 <Enter>
```

LED を ON

LED を OFF

先頭に行番号をつけてプログラムを入力すると、すぐには実行されず、IchigoJam のメモリに記憶されます。

入力できたら、プログラムを実行してみましょう。

```
RUN <Enter>
```

RUN(ラン)命令はプログラムを実行する命令です。行の順番にプログラムが実行されます。
実行すると、どうなりましたか？

…LED が光りません。

これは、10 行の「**LED 1**」で LED が光るのですが、すぐに 20 行の「**LED 0**」で LED が消えてしまうので、速すぎて目に見えないのです。

●時間待ちをする

LED を光らせた後、しばらく時間を置いてから消すプログラムにしましょう。
間に 1 行追加します。

10 LED 1	※この行は打たなくてよい
15 WAIT 30	0.5 秒待つ
20 LED 0	※この行は打たなくてよい

画面上のどの場所でも「15 WAIT 30 <Enter>」と入力すれば、15 行に追加されます。

プログラムを実行してみましょう。LED が 0.5 秒光って消えます。

WAIT (ウェイト) 命令は、時間を待つ命令です。

WAIT 30
待ち時間

待ち時間	1/60 秒単位で指定。60 で 1 秒。
------	-----------------------

待ち時間をいろいろ変えて、試してみましょう。

プログラムを 4 行追加して、LED を 2 回光らせてみましょう。

10 LED 1	※この行は打たなくてよい
15 WAIT 30	
20 LED 0	
30 WAIT 30	0.5 秒待つ
40 LED 1	LED を ON
50 WAIT 30	0.5 秒待つ
60 LED 0	LED を OFF

プログラムを実行してみましょう。LED が 2 回光ります。
WAIT の待ち時間をいろいろ変えて、試してみましょう。

入力されたプログラムの内容を確認するには、LIST (リスト) 命令を使います。

LIST

プログラムがうまく動かない時は、リストを表示して確認しましょう。

●くり返し

今はLEDを2回光らせましたが、10回光らせたい時はどうすればいいでしょうか。もちろん今と同じプログラムを10回分書けば、10回光りますが、とても面倒です。こんな時は、くり返しの命令を使います。

まず、LEDを2回目に光らせるプログラム部分、40行、50行、60行を消します。

```
40
50
60
```

行番号だけ打ってEnterキーを押すと、その行は削除される

以下のプログラムを入力します。

```
5 FOR X=1 TO 10
10 LED 1
15 WAIT 30
20 LED 0
30 WAIT 30
40 NEXT
```

変数Xを1~10まで変化させてくり返し

ここまでくり返し

プログラムを実行してみましょう。LEDが10回光ります。

新しく追加したFOR(フォー)、NEXT(ネクスト)命令について説明します。

```
FOR   X=1   TO   10   STEP   1
      変数の  最後の値  変化させる値
      最初の値
```

変数の最初の値	指定した変数へ最初にセットする値。
最後の値	この値まで変数を変化させる。
変化させる値	この値ずつ変数を変化させる。 STEP以下を省略すると1ずつ増やす。

```
NEXT  ここまでくり返し
```

「変数」(へんすう)は、数字を入れる箱(いれもの)だと思ってください。

小学生の人は算数で習う「□」(四角)、中学生以上の人は「x」などの文字と思えばいいです。

「FOR X=1 TO 10」とすると、変数Xを1から始めて10になるまで1ずつ増やして、「NEXT」までのプログラムをくり返し実行します。

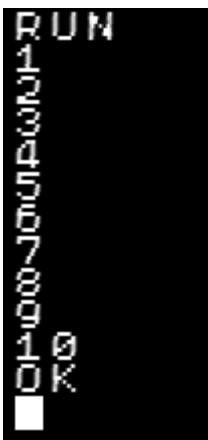
くり返しの動きを確認するために、変数Xの値を画面に表示するようにしてみます。

```
5 FOR X=1 TO 10
7 PRINT X
10 LED 1
15 WAIT 30
20 LED 0
30 WAIT 30
40 NEXT
```

変数 X の値を画面に表示する

プログラムを実行してみましょう。

LED が光ると同時に、画面にXの値が順に表示されます。



FOR 命令の最初の値、最後の値、変化させる値をいろいろ変えて試してみましょう。

LED を光らせる条件をいろいろ変えてみましょう。

◇逆に、ボタンが押されていない時だけ LED を光らせる

```
10 IF BTN()=0 THEN LED 1
```

もしボタンが押されていないかったら
LED を光らせる

先のプログラムと逆になるので、ボタンを押すと LED が光らなくなります。

◇X が 1~5 の時だけ LED を光らせる

```
10 IF X<6 THEN LED 1
```

もし X が 6 より小さければ
LED を光らせる

最初の 5 回は LED が光りますが、後半の 5 回は光らなくなります。

不等号「<」「>」を使うと、「～より小さい」「～より大きい」という条件判断ができます。

◇X が奇数の時だけ LED を光らせる

```
10 IF X%2=1 THEN LED 1
```

もし X を 2 で割った余りが 1 ならば
LED を光らせる

X が 1,3,5,7,9 の奇数の時だけ、LED が光ります。

わり算の余りを出すには「%」を使います。

条件式をいろいろ変えて、試してみましょう。

●プログラムを保存する

このままだと、IchigoJam の電源を切ると、入力したプログラムは消えてしまいます。消えないように、プログラムを保存しましょう。

★プログラムの保存

プログラムを保存するには、SAVE (セーブ) 命令を使います。

```
SAVE 0 <Enter>
Saved 62byte
OK
```

SAVE 命令の文法は以下のとおりです。

```
SAVE 0
      保存領域番号
```

保存番号	保存領域の番号(0~3)。省略すると、前回使った番号になる。
------	--------------------------------

保存領域は 0~3 の 4 つあり、最大 4 個までプログラムを保存できます。

ファンクションキー 3 番 (F3) に「SAVE」が設定されているので、ワンタッチで入力できます。

保存されているプログラムを確認するには、FILES (ファイルズ) 命令を使います。

```
FILES <Enter>
0 FOR X=1 TO 10
OK
```

保存領域の番号と、プログラム 1 行目の内容が表示されます。

★保存したプログラムを呼び出す

保存したプログラムを呼び出すには、LOAD (ロード) 命令を使います。

```
LOAD 0 <Enter>
Loaded 62byte
OK
```

```
LOAD 0
      保存領域番号
```

保存番号	保存領域の番号(0~3)。省略すると、前回使った番号になる。
------	--------------------------------

ファンクションキー 2 番 (F2) に「LOAD」が設定されているので、ワンタッチで入力できます。